

(特研様式5)

所属長印

早稲田大学総長 殿

2010年6月22日

所属 社会科学総合学術院  
資格 教授  
氏名 成富 正信 印

## 特別研究期間研究成果報告書

1. 研究課題：大都市公営住宅における高齢者の暮らしとコミュニティについての実証的研究
2. 研究期間：2007年4月1日 ～2008年3月31日
3. 研究場所（国/都市・機関名）：日本/東京
4. 研究成果概要（2,000字以内）：

### ○問題意識と方法

特別研究期間中の2007年5月より2008年3月まで、新宿区都営百人町アパート（通称「戸山団地」）をフィールドとして、高齢者の暮らしとコミュニティの現状・課題についての実態調査を実施した。対象とした地域では、大規模団地の建て替えによる住環境の激変と人口の急増、居住者の高齢化と単身高齢者の増加、古くからの住民と新たに転入してきた住民の混在など、暮らしとコミュニティの諸局面で大きな変化が起き、さまざまな生活課題が生じていた。また高齢化が進展する中で、マスコミが報じる「孤独死」事件が世間の注目を集め、行政も新たな施策を講じる必要に迫られるという状況であった。一方住民が主体となった課題解決への取組みや新しい住環境でのコミュニティ再構築の動きもみられた。

この地域の現状を踏まえて、暮らしの課題とコミュニティ活動についての詳細な実態調査を行うことは有意義であり、またこの研究の成果は、今後いっそう高齢化が進むと予想される大都市部の地域社会の変動を理解するうえでも、大いに貢献できるものと考えられた。

なお、この調査は新宿区社会福祉協議会との共同調査として行ったものである。調査は、住民・団地関係者に対する聞き取り調査と全世帯を対象とする質問紙調査の二本立てで実施し、調査結果は『戸山団地：暮らしとコミュニティについての調査報告書』（平成20年5月、新宿区社会福祉協議会発行）にまとめた。

### ○研究結果の概要

都営戸山団地（正式名称は「百人町3丁目・4丁目アパート」）は、高齢化率5割、高齢者中の75歳以上人口が5割、全世帯中の単身高齢者世帯率5割という超高齢化コミュニティであり、新宿区内でもとびぬけて高齢化率の高い地域であった。戸山団地は昭和23～5年に建設された戦後初の中層鉄筋コンクリート住宅団地で、平成2年から20年までの建替えて全16棟、居室数2,321戸、旧団地のほぼ1.8倍の高層大規模団地に生まれ変わった。住民の長期居住と子供世代の流出によって高齢化は建替え前はかなり進んでいたが、新団地は旧年までの建替えて全16棟、居室数2,321戸、旧団地のほぼ1.8倍の高層大規模団地に生

※研究終了後2ヶ月以内に提出してください。ワープロ原稿の貼付けも可。なお、学術研究活動情報（学術年鑑 Web）のホームページに掲載しますので、電子メールでも研究支援課まで（tokkenseika@list.waseda.jp）ご提出くださるようご協力をお願いします。

